

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191700026		
法人名	有限会社めぐみ介護サービス		
事業所名	グループホーム中野方めぐみ		
所在地	岐阜県恵那市中野方町3564番地の3		
自己評価作成日	令和5年7月28日	評価結果市町村受理日	令和5年12月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosyoCd=2191700026-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関門市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和5年8月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

木造建築の一軒家という立地を活かし、季節感を感じられる工夫をしています。コロナは治まりつつありますが、ご利用者各個人様が居室中心の生活という事もあり食事や誕生会、節分・七夕といった季節ごとのイベントに力を入れています。アピール点としては、地域の方々の認知症高齢者施設である事の理解もあり、地域活動について参加できない事にも理解を示して下さっている点です。野菜・果物の差し入れ、草刈り作業についても地域の方々が協力をして下さり、施設としては冷たい飲み物の提供等で応えており、地域の方々との良好な関係を維持出来ています。家族様とも通信の発行で生活の様子を伝える事で連携が取れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍が落ち着きを見せるものの、解消されたとは言えず、ホームの取組みに制約はある。ホーム内で行える季節の行事や誕生日会・食レク等が主になっている。前向きに取り組むことで、利用者の生活に閉塞感を感じさせないようにしている。近隣住民からの野菜や果物の差し入れは継続しており、ホームの認知度は高く、地域に受け入れられている。消防団や壮健クラブとの連携も図られ、良好な関係が維持されている。利用者の重度化・終末期の取組みとして、本年7月より看取り介護に取り組んでいる。それに伴い、職員に対し看取り研修も実施しており、体制を整えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員、事業所理念「共豊」を把握出来ており事業所、利用者様、家族様、地域の方々がより良い関係で過ごせるよう考えている	ホーム内で理念の周知理解を促すために、話し合いの機会が設けられている。勤続年数の長い職員が多く、ホームの掲げる理念をよく理解し、日常業務に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	野菜・果物の差し入れや、草刈り作業などでのつながり、交流が出来ている	コロナ禍で多くの制約を受けてきたが、最近では花火や祭りが再開し、地域との交流機会が増している。中学校やこども園との交流も持たれ、以前からある野菜などの差し入れや草刈りなどは継続している。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議の実施で利用者様の状況報告、意見、アドバイスをもらっています	コロナ禍により、運営推進会議を書面の配付による開催としてきたが、6月開催より対面にて実施できるようになった。参加者を増やすために、開催月の変更などを検討しており、意見交換の場として活用するための取組みがある。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議委員の方に市役所高齢福祉課の職員もおり、協力関係を築いています	行政との情報交換や相談などは、コロナ期間中は電話やメール等が主な手段であったが、連携に支障は出なかった。運営推進会議が対面で開催されるようになり、直接話すことが出来る機会が増えたことは良いことであり、有効に活用している。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定例ミーティングで3ヶ月に1度は身体拘束の研修を行っており、身体拘束は行われていない	定期的に行われるミーティング時に身体拘束廃止委員会を設定し、研修を兼ねた形で実施している。職員は身体拘束について理解しており、拘束は行われていない。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待についても定例ミーティングで定期的に研修しており行われていない	身体拘束と同様に研修が行われており、職員は学ぶ機会を持っている。研修では事例検討等が行われ、職員の理解を深めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定例ミーティング権利擁護についても法令遵守項目で学んでおり理解の場を作っている		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書もお持ち帰り頂くと共に不明な点は何でも聞いてもらうよう説明しており納得出来るようにしている		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話連絡や事業所通信の発行でご家族様と連携を深め意見をもらっている。また、日々の会話や介助の中で出たご利用者様の要望も聞いている。外部者表せる機会は弱いかもしれない	家族等とは訪問時や電話などで話をする機会を持っており、意見や要望を聞くことが出来ている。家族への情報提供は積極的に行っており、家族の満足度は高い。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の報連相ノートでの連絡、定例ミーティングでの意見交換、提案を反映出来る職場環境づくりをしている	管理者と職員は、日常的に話し合う機会が設けられている。「報連相ノート」を活用し、ミーティング時での意見交換や提案は必要に応じて検討し、ホーム運営に反映させるように努めている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	勤務体系について職員のプライベートの確保に努め、職員の希望での指定休日対応をしており就業環境の整備にも努めている	管理者は職員の勤務状況を把握しており、ワーク・ライフ・バランスにも配慮している。就業環境について改善すべき課題を把握し、必要性も認識している。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の情報入手には常に努め、職員に伝えている、定例ミーティングでも法令遵守として様々な項目の研修をしている	法人全体での研修計画があり、計画に沿って実施している。事業所ではミーティング時に時間を設けて研修を行っており、管理者は職員の力量を把握し、介護技術や認知症の研修を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修がある時は職員に周知し、勉強会にも出れるよう情報を収集するようにしている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設内生活が中心であることから、日々傾聴に努め良好な関係を築けるよう沢山の会話もしている		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全てのニーズには応えにくいものの本人様の思いの把握には日々の会話で努めれている	利用者の意向や要望は、日常の関わりの中で把握するよう努めている。把握したら個別の記録に残し、職員間で共有して日々のケアに活かしている。また、必要に応じて検討し、介護計画に反映させている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	昨年よりもケアマネジャーの施設訪問も増えてきており、計画作成出来ている	介護計画は3、6ヶ月で更新されている。更新時はモニタリングを行い、提供されたサービス内容を評価し、検討した上で介護計画を作成している。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきを各職員が報連相ノートで連絡、月1回のミーティングで検討・見直しが出来ている	利用者の様子は個別の「介護日誌」に記録され、職員間で情報を共有している。利用者の日々の変化など、情報を周知するために「報連相ノート」が作成され、活用されている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1ヶ月に1回は家族様に連絡し、状態の報告要望についてを聞いて対応している	利用者の家族に、毎月一回は利用者のホームでの様子やホームの取組みを連絡することで、ホームに対する要望を聞くようにしている。利用者との日々の関わりの中でニーズの把握に努め、出来る範囲で支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握する事は困難ではあるが、出来る事は行ってもらい、介助は最小限で済むよう日々支援しています		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医には小さなことでも相談している 2週間毎の往診も出来ている	協力医の月に2回の訪問診療がある。専門の診療科への受診も、協力医の支援が得られる。利用者の些細な状態の変化にも対応が得られ、協力医との密な連携により、適切な医療が受けられる体制がある。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医との日頃からのご利用者様の状態把握の連携、主な入院先となる病院の退院調整看護師との関係作りに努めている	入院時には入院先との情報交換を密に行い、協力医とも連携が取れている。利用者の情報はサマリーが交付され、十分に情報を得ることが出来る。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族様にはご利用者様の状態に変化・悪化があれば早急に伝え、まずは救急搬送、その後の支援の方針は家族様の意思を優先、支援に努めている	7月より看取り対応を行うこととなった。利用者や家族の意向を確認し、利用者の状態により医師を交えて話し合い、方針を決定して家族の意思を優先した支援に努めている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルで、何をすべきか定例ミーティングで全職員確認しています 施設方針としては救急車要請が主になる事を家族様にも周知出来ています		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難についての各職員の役割、地域消防団との連携の声掛けは出来ている	避難訓練は定期的実施しており、避難確保計画が作成されている。AEDの使用訓練は毎月行っており、職員全員が使用できる。地域との協力体制としては、消防団との連携も図られ、非常時の対応は職員に周知している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員、声掛けには特に気を付けている 居室での本人様の時間は大切にしている	利用者の尊厳を確保するために、人権やコンプライアンス等の研修が行われている。日常の関わりの中での声掛けや、誘導の際の言葉遣いには特に配慮し、プライバシーや羞恥心への気配りも怠らない。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	実現出来る・出来ないはあるものの、職員やケアマネージャーが思いを傾聴し、自己決定出来るように働きかけています		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室中心の生活の方がほとんどであり、本人様のペースに任せています		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に片付けは難しいが、食前にテーブルを拭いてもらうなど何か出来る事をしてもらっている	利用者が、食事を楽しみとするよう配慮し、季節の食材を用い、行事食を提供している。利用者の希望や身体状況に合わせ、出来ることを一緒に行っている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分摂取量チェック表を使い、食事・水分の摂取量把握をしています。各居室に水分を用意し、自由に飲んでもらっています		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の方、介助の方含めて全利用者様の口腔ケアの実施を食後に実施している	利用者の口腔内の清潔保持に努め、毎食後の歯磨きや、義歯の衛生管理を利用者の力量に合わせて支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレのリズムを日々確認し、排泄チェック表の活用、自室へのポータブルトイレの設置で自立支援に努めています		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	現状、自身で入浴したいと申し出る方が2名しかいませんので他の方は入浴チェック表を基に2、3日に1回、入浴出来るように支援しています		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	空調に注意するなどして、お好きな時に休んでいただけるようにしています		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の把握に努めており、また確実に服薬出来るよう、飲み込まれるまでの見守りにも努めている	職員は、利用者の使用している薬について理解している。利用者が確実に服用できるように、職員が薬を確認し、飲み込みを見届けるまで支援している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割という面では困難であるものの、好きな食べ物を定期的にお聞きしたり、居室での好きな過ごし方を提供している	現在の利用者の身体状況では、役割を持つことが難しい状況ではあるが、やれることはやってもらっている。好きな食べ物を提供するように努め、趣味や習慣が継続できるように支援している。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出掛けたいと言われても必ずしも出かけられるわけではないので難しいが何とか電話対応で話が出来た環境をつくらせている	まだコロナ禍の影響は大きく、気軽に外出できる状況とはなっていない。利用者の気分転換を図るため、屋外へ出たの外気浴や、ホーム周辺の散歩程度の支援に留まっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持については、契約時に持ってこないようにしてもらい、家族様に了解を得ています無くなってしまった時を想定して預からないようにしています		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様に了解を頂き、ご利用者様からの要望があれば電話がくる旨を伝えてあり出ています。 馴染みの方との手紙のやり取りも自由に行ってもらっています		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に1階トイレは分かりやすくしている。ホールにおいても話が合わない方同士は同テーブルにならないよう配慮している	利用者同士の相性に配慮した席決めや、トイレの場所を明確にするなど、共有空間で利用者が快適に過ごせるよう配慮している。清掃は担当が決まっており、定期的に清掃・消毒を行っている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	性格が合わない方同士が近い席にならないように常に職員と話し合っ座席の配置に気を配ってケンカが無いように見守っています		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室については各ご利用者様に任せています。 職員が特に口に出すことも無いので出ています		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	今、出来る事または介助があればできる事を最大限に活かした支援をしている		